



WWF

FACTSHEET

2012



© Jürgen Freund / WWF-Canon

## 限度ある漁業 Fishing within Limits

### 効率的で信頼性のある漁業管理のための措置と持続可能性の確立

現在の中西部太平洋の漁業管理方針は、多様な関心や価値観が競合する中、全会一致が原則の会合のため、日和見的とも言えるものになっています。幅広い関心が競合することから、しばしば長期的な生産性や持続可能性は後回しとなり、短期的な経済上の関心を最大優先する決定が行われることがあります。この決定は、漁獲水準の幅を広げ、乱獲や不安定な市場供給に繋がる恐れがあります。一方、基準値(Reference Points)と漁獲管理方策(Harvest Control Rules)に基づいた漁獲方針を導入することで、漁獲が、認められた上限を超えないよう事前に合意した基準に基づき、迅速かつ効果的に管理することができます。これらは結果として、資源の持続可能性を確実にし、水産物を市場への安定供給を可能とするのです。

#### 基準点とは？

基準点とは、管理者が漁業の操業実績を決めるための指標となる値であり、しばしば資源量や漁獲水準のような指標に基づいています。

水産学者は、ある期間における漁獲資源量と漁獲死亡率を推定するために、水産資源の評価を行います。基準点は、対象とする魚種の生物学的特徴の知見に基づく推定値と比較するための基準としての役割があります。

基準点には、管理者が回避すべき水準である「限界値」や、管理者が達成し維持すべき「目標値」があります。管理者は、限界値もしくは目標値とは別に、この二つのほかにほかの目的に合わせて設定された「トリガー」となる値を設定することができます。

■ **限界管理基準値(Limit Reference Point)**：赤信号のようなもので、値に近づいたら漁獲をストップしなければなりません。管理者は、漁獲資源量もしくは漁獲水準がこれを下回らないようにします。一般に、資源量の生物学的状態のみを考慮します。

■ **トリガー管理基準値(Trigger Reference Point)**：黄色信号のようなもので、値に近づいたら漁獲を減らすか警戒をしなければなりません。限界基準点を下回らないよう漁獲水準をゆるめる等、何らかの管理措置を実行することが求められる、中間の漁獲資源量もしくは漁獲水準を意味します。

■ **目標管理基準値(Target Reference Point)**：青信号のようなものですが、どちらかというアーチェリー的の中心点のようなものです。目標とすべき漁獲資源量または漁獲死亡率で、生物的、生態的、社会的、経済的概念から設定されます。資源量予測は不確実性を伴うため、安全を考慮した十分に高い値とし、限界基準点より低く設定されてはいけません。



© Alain Compost / WWF-Canon

## 漁獲管理方策とは？

漁獲管理方策とは、中長期的な目標管理基準値を達成するために、管理主体が事前に合意した管理措置のことで、漁獲量が限界管理基準値に達するのを防ぐためのものです。単純な漁業管理方策は「もし～の場合、～を行う」といったかたちで、「もし、漁獲資源水準が目標水準を下回った場合、漁獲水準の20%削減を行う」といったものです。管理者は事前に、禁漁区の設定や漁具の制限など、どのような管理措置が漁獲水準の20%減にあたるかを合意しておくことが望まれます。

## 基準値や漁獲管理方策を使う理由

現在の中部大平洋の漁業管理の意志決定は年1回の会合で行われます。しかしながら、生物的、生態的、社会経済的状況から、迅速かつ重大な措置が求められたとしても、それとは全く別の政治的要因によって左右され、遅々として進まないこともあります。しかし、事前に設定された基準点と漁獲管理方策を用いることで、漁業が限界管理基準値や目標管理基準値に達した際、管理者は迅速かつ毅然とした態度で決定を行うことができるようになります。

漁獲管理方策を簡潔に説明すると...

- 情報に基づいた管理決定を合理化し、促進する
- 漁獲管理の決定に関し、透明性を高め、情報公開に努める
- 明解な目標値と限界値を設定する
- 資源状況の変化に対応できる明解な意志を決めておく
- 健全な科学に基づき明確に定義された漁業管理計画を策定するための基金を設立する
- 持続可能性を促進する

## 漁獲方針／戦略とは？

漁獲方針とは漁獲戦略とも呼ばれ、管理者がいかにして一般的な漁獲水準、許容された漁獲水準を設定していくかを規定した基礎的ガイドラインです。漁獲方針の選択は、漁業や過剰漁獲のリスクを左右します。基準値と漁獲管理方策を規定する取組は、漁獲方針をわかりやすく周知するのに役立ちます。基本的な漁獲方針として、次のような例があります。

- 最も経済的な生産を実現(MEY:Maximum Economic Yield)するのに必要な資源量と同等の目標管理基準値における水産資源量を維持すること
- 資源量が、過剰漁獲のリスクが著しく増加する水準やトリガー管理基準値を、常に上回るようにすること
- 資源量が、定められた限界管理基準値を常に上回るようにすること
- 資源量が限界管理基準値を下回る場合、目標管理基準値に見合うよう資源量を再構築するための計画修正案を策定すること

世界のマグロ供給の健全性、信頼性、安定性を確実にするために、WCPFC(中西部太平洋まぐろ類委員会)における、科学的根拠に基づいた、基準点、漁獲管理方策、漁獲方針を支持し、推進してください！



私たちはWWFです

人と自然が調和して生きられる未来を目指して、地球環境の悪化をくい止めるさまざまな活動を実践しています。

